

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 90

学校名・団体名	南部町立会見小学校
HPアドレス	http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/aimi-e/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	豊かな心をもち、地域への愛着を育む子供の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校では、学級経営を基盤としながら、特に生活科・総合的な学習の時間を中心に各教科・領域と関連し、「会見（そのもの）を学ぶ：会見（一例として）で学ぶ：会見（先進性）に学ぶ」地域素材の活用に積極的に取り組む。1年生では「自然と遊ぶ」、2年生では「まちのよいところみつけ」、3年生では「町の特産物（富有柿）」、4年生では「自然環境（金田川のホタル）」、5年生では「伝統文化（米づくり）」、6年生では「人権のまちづくり」をテーマに取り組んでいる。</p> <p>これらの学習は、ふるさと南部町を知り、ふるさとに愛着をもち、ふるさとに住む人々に共感し、ふるさとを元気にするための方策に参加できる子ども達を育てる学習である。本校では、「みのりの時間」として取り組んでいる。生活科や総合的な学習の時間にまち未来科の12時間を加え、体験活動の繰り返しや調べ学習を中心に置き、児童の自ら課題を持って探究的に学習を進めるみのりの時間を充実させることとする。</p>	

【研究取組の概要】

進んでかかわり合い、学び続ける子どもを育てるため、生活科・総合的な学習の時間を中心に取組を始めた。そして、体験活動と豊かな学び合いを繰り返し行うことで豊かな心と地域への愛着を深める子どもが育つと考えた。今年度は、対話的な学びを重点とすることで、深い学びにつなげたいと考えた。対話的な学びを深めるために、自分の考えをもって話し合いに参加すること、思考ツールを活用して考えを伝え合うこと、全体での話し合いを深めるための構造的板書の工夫に努めた。

【研究大会の概要】

平成29年12月1日に本校を会場に第4回中国地区生活科・総合的な学習の時間教育研究大会（第1回鳥取県生活科・総合的な学習部会研究大会）を開催した。県内はもとより、中国地区各県、香川県などから200名近くの方が来校され、授業参観や授業討議、県内実践発表、指導講評や講演が行われた。大会では以下の通り、全学年が公開学習を行った。

1年生活「あきのわくわくであそぼう」

学校の周りや大山、花回廊などに繰り返し出かけることによって、秋の自然には特徴があることに気付くことができた。秋の自然物を使ったおもちゃ作りや遊びは、ルールを工夫したり、素材を生かした遊びを発想したりした。同学年の友だちだけでなく、2年生との交流を繰り返すことで、活動を通して得られる気付きが広がった。また、お店屋さんとして、お客さんに喜んでもらうための接客の態度や言葉づかいなどを考え工夫する場を位置付けたことで、相手意識を育て、豊かなコミュニケーション力を育むことにつながった。



あきのわくわくであそぼう

2年生活「会見のまちの『おたから』をみつけよう」

まち探検では、お店や施設を訪れ、インタビューしてわかったことを発表し合った。自分達の通学路にある標識を作ってくださいという方や、自分達の学校の体操服を売っているお店の方に出会い、地域と自分達の生活とのつながりに気付くことができた。インタビュー形式で学習を進めることで相手意識をもって活動できた。友だちの発表を聞きながら、調べてきた場所や人のこと、自分たちのグループが調べてきたことを比べたり、合わせて考えたりし、考えを認めたり、広げたり、深めたりすることができた。



会見のまちの「おたから」をみつけよう

3年総合「おいしいまち会見～広めよう会見の柿～」

特産物調べから会見が県内でも有数の柿の名産地であることを知り、関心・意欲をもって取り組んだ。学校の外に出かけ、柿農家や選果場、JAの方と関わり合いながら、柿について学んだり、柿に対する地域の方の思いを知ったりする活動を重ねることで、柿に対して愛着や誇りを感じることができた。学習の中でかかわっていた大人に自分たちがしてきたことを提案する場面も設定し、大人と子どもの考えのずれに気付く場を設定しながら学級全体で本当に相手の立場も考えた値打ちのある活動を考え実践し、評価を受けたり振り返ったりすることで、子どもであっても地域の役に立つという充実感を味わうことができた。



おいしいまち会見～広めよう会見の柿～

4年総合「ホタルは会見の宝物」

6月には「ホタル祭り」が行われ、地域おこしの重要な行事となっている。このような環境の下、子ども達は「ホタルは会見の宝物」というテーマに対して、まずはホタルについていろいろな方向から調べた。そして、ホタルにかかわっておられる地域の方と交流することで、地域の歴史や自然環境とホタルのつながりを学び、自分達の課題を見つけていった。検討した事項を友だちや地域の方と実践することで地域や社会をよくするために取り組んでいるという実感をもつことができた。



ホタルは会見の宝物

5年1組総合「笑顔でかがやこう会見～保育園交流で見つけよう すてきな関わり方～」

運動会に向けての下学年のダンスや上学年の組体操の練習を年長児が参観に来る機会があった。その際に、5年生と年長児が出会い、ペアとしてこれから一緒に活動をしていくことにした。活動を通して、子ども達はもっと年長児と交流をしたいという思いをもつようになった。交流を積み重ねるごとに「相手が喜んでくれると、自分もうれしい。」「こちらが笑顔で接すると、相手も笑顔になってくれる。」など、自分達の関わりを振り返ることができるようになった。年長児との関わりを通して、相手の気持ちを考えたり、自分の言動をどうすればよいか考えたりすることで、今までの自分はどういう風に人と関わってきたかを振り返る機会になった。さらに交流を通して自分の成長を実感できるようになった。



保育園交流で見つけようすてきな関わり方

5年2組総合「笑顔でかがやこう会見～会見ホタルサミットに向けて～」

4年の時から金田川のホタルについて学習を続けてきた。学習を進める中で6月にあるホタル祭りにもう一度参加して「金田川ホタルの里」の取組に協力したいという思いが強くあり、5年生になった今年度も金田川のホタルやそれを巻き巻く環境の大切さについて学習を続けることにした。ホタル祭りへの協力やホタル保護活動を続けてきた地域の方の思いを知る学習を通して、環境を守ることに実際の苦労ややりがいを感じ、地域で生きていく一員として自分達に何ができるかを考えた。そこで金田川の取組を学校の裏を流れる水路にも広げ、ホタルの飛び環境を増やしていこうという活動に発展してきた。学習してきたことを生かして主体的に地域をよりよくしていこうと行動することで、ふるさとを大切にしたいや達成感、自尊感情を高めることができた。



会見ホタルサミットに向けて

6年総合「平和伝え隊まつり～桜にこめられた思い～」

修学旅行での学習を通して、子ども達は戦争の悲惨さを知り、平和の大切さを強く感じた。また地域の桜の美しさや先人の思いを知り、意欲的に調べ学習や聞き取り学習に取り組んできた。「この戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えたい。」「地域で何か貢献したい。」と考え、伝え隊として地域で祭りを開いた。地域の方に参加していただくことで、子ども達だけでは気付くことのできない視点や情報が加わり、新たな気付きや深い理解、地域の方との協力が生まれた。



平和伝え隊まつり～桜にこめられた思い～

2月の町人権教育集会では、地域の桜に関する歴史や先人の思い、総合的な学習の時間で体験したり、学習したりしたことを劇にし、地域の方へ桜に込められた思いを伝えた。さらに桜の剪定や維持管理作業に参加することで地域に貢献することを繰り返し取り組んだ。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」という項目において、5年では肯定的回答が56%と課題があったが、6年では91%と大きく向上した。

〈授業参観者の感想〉

- ・、何度も体験し、失敗してきたからこそ「次こそ！」という意欲につながっていたと思った。
- ・「南部町や会見をよくしたい!」「広めたい!」という子どもの姿がどの学級にも見られ、先生方の毎時間の準備・計画・支援がすみずみまで行われていると感じた。
- ・子ども達が祭りを通して地域の方と触れ合いながら自分達で学んできたことを伝えることができ、素晴らしいと思った。

【成果（子どもたちへの効果）】

子ども達の地域に対する愛着や貢献しようとする気持ちが薄いという実態があったが、今年度実施した子どものアンケートでは「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」という項目で肯定的回答が80%と大きく向上した。地域の方とのつながりが深まり、愛着をもつことができるようになったことは大きな成果である。また思考ツールの活用でグループでの話し合いが活発になったり、構造的板書の工夫により子どもの考えが整理され、全体の話合いで考えを深めたりすることができたのは、今年度の重点目標である対話的な学びの充実につながるものであった。